

平成 30 年度 川崎市健康安全研究所 理化学検査情報 Vol. 4

目 次

東扇島東公園人工海浜の二枚貝検査結果（平成 30 年 3 月～ 8 月）（食品担当）・・・ 1

（発行：平成 30 年 10 月 1 日）

東扇島東公園人工海浜のアサリ検査結果（平成 30 年 3～8 月分）（食品担当）

(1) 概要

川崎区の東扇島東公園は平成 20 年 4 月にオープンしました。公園内人工海浜「かわさきの浜」には、天然の「アサリ」等の貝類が自生し、シーズン中は多くの方が潮干狩りに訪れています。当所では、この人工海浜における潮干狩り解禁前及び解禁中のアサリについて検査依頼を受け、麻痺性貝毒、下痢性貝毒が規制値を超えていないかどうか検査しています。

<参考 URL>

川崎市健康安全研究所ホームページ「自然毒検査」

<http://www.city.kawasaki.jp/350/page/0000053210.html>

川崎市：東扇島東公園ホームページ

<http://www.city.kawasaki.jp/580/page/0000001282.html>

(2) 根拠法令等

食品衛生法

(3) 検査依頼元

川崎市港湾局

(4) 検査結果

次の表のとおりです。今シーズンは麻痺性貝毒、下痢性貝毒の規制値を超える結果はありませんでした。

採取日	麻痺性貝毒	下痢性貝毒 (オカダ酸群)
H 30.3.6	1.8 M U /g未満	不検出
H 30.4.17	1.8 M U /g未満※	不検出
H 30.6.13	1.8 M U /g未満	不検出
H 30.7.11-12	1.8 M U /g未満	不検出
H 30.8.13	1.8 M U /g未満	不検出
定量下限	1.8 M U /g	0.01 m g/kg
規制値	4 M U /gを超えない	0.16 m gオカダ酸当量/kg

※は、自生しているアサリの量が減っており、検査に十分な検体量が採れなかったため参考値である。

(5) 貝毒説明

ア 麻痺性貝毒

ホタテガイやムラサキイガイ等の二枚貝の餌であるプランクトンの一種が毒成分を産生し、その毒を体内に蓄積して毒化した二枚貝を人が食べることによって中毒症状が起こります。甲殻類や巻貝において

も、毒化して中毒症状が起こることもあります。毒成分はサキシトキシン、ネオサキシトキシン及びゴニトキシン群など多数の同族体が存在します。中毒症状は食後 30 分程度で軽度の麻痺がはじまり、重症の場合は死亡することがあります。

<参考 URL>

厚生労働省ホームページ「自然毒のリスクプロファイル:二枚貝:麻痺性貝毒」

http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/animal_09.html

イ 下痢性貝毒

麻痺性貝毒と同様に二枚貝等の餌であるプランクトンの一種が毒成分を産生し、その毒を体内に蓄積して毒化した二枚貝等を人が食べることによって中毒症状が起こります。毒成分はオカダ酸とその同族体のジノフィシトキシン群です。おもな中毒症状は消化器系の障害で、下痢、吐気、嘔吐、腹痛等が食後 30 分から 4 時間以内の短時間で起こります。回復は早く通常は 3 日以内に回復し、後遺症はありません。

<参考 URL>

厚生労働省ホームページ「自然毒のリスクプロファイル:二枚貝:下痢性貝毒」

http://www.mhlw.go.jp/topics/syokuchu/poison/animal_10.html